

インタビュー

“One NTT DATA” として、 真のグローバルIT企業グループ 入りを目指す

グローバルビジネスの拡大に向けた取組みを加速するNTTデータ。現在、海外グループ会社の社員数は、26,500名に拡大している。グローバル市場でのさらなる成長に向け、NTTデータグループ全体が“One NTT DATA”としてグローバル戦略を推進している。グローバル戦略の推進状況について、西畑一宏執行役員・グローバルビジネス統括本部長にうかがった。

海外拠点は、34カ国143都市、社員数26,500人に拡大

—初めに、本年7月、グローバルビジネス統括本部を設立されましたが、その背景と狙いからお聞かせください。

西畑 NTTデータの国内の社員数は、本社1万人、国内グループ会社2万人を合わせて3万人、海外は昨年今の頃は数千人でしたが、2011年9月末には約26,500人に拡大しました。本年7月1日、グローバルITサービスカンパニーの国際事業

本部は、グローバル事業の急拡大に対応するためカンパニー横断の全社組織として再編し、「グローバルビジネス統括本部」となりました。「グローバルビジネス統括本部」の設立は、それまでカンパニーごとに縦割りで行っていたグローバル展開を集約し、グローバル事業の一体的かつ効率的な運営体制、“One NTT DATA”を構築することが狙いです。新組織は、グローバル戦略策定、海外グループ会社のガバナンス強化などの役割を担っています。

—国内に近い規模のグローバル体制



(株)NTTデータ 執行役員
グローバルビジネス統括本部長
西畑 一宏氏

を確立されたことで、特に変わったことというのがありますか。

西畑 一番変わったのは、国際メンバーが増えたことで、いろいろなシナジーが増えてきたことです。次に、国内グループ会社からの注目度が変わりました。私どもは、国内外のグループ企業のCEOを集めた国際会議「CEOコンファレンス」を開催していますが、本年7月に日本で開催した「大津CEOコンファレンス」では、海外グループ会社27社のCEOは、国内のグループ会社の社長と初めてディスカッションしました。CEOコンファレンスに初めて参加した日本人にとっては、「NTTデータは本当にグローバルだ」ということを実感し、相当に衝撃的だったようです。どちらかというと守りの意識が強い国内グループに対し、売上げ拡大と利益伸長を第一とする海外グループ会社のカルチャーは、ある意味良い刺激になったと思います。

34カ国143都市 約26,500人体制を確立。

(2011年9月30日時点)

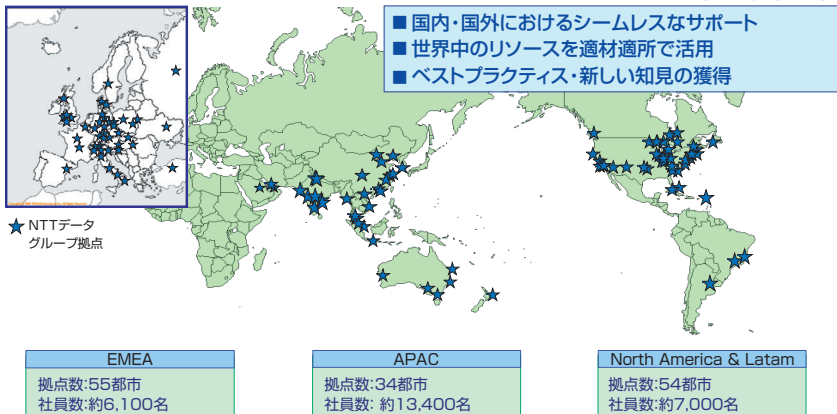
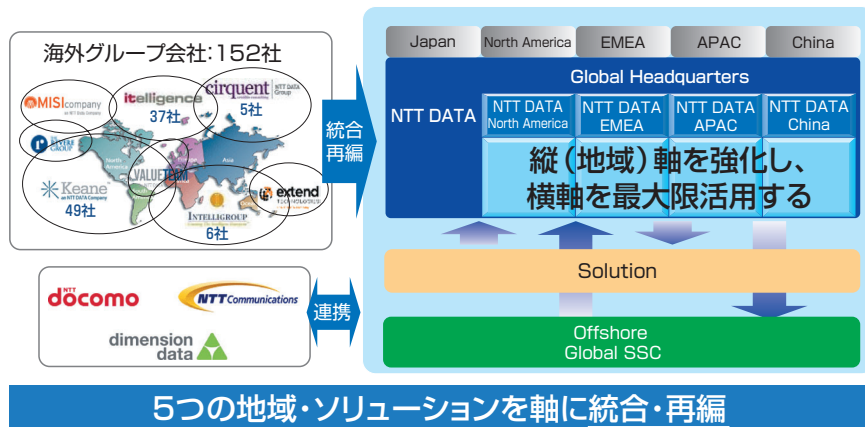


図1 海外拠点の状況

地域・ソリューションの重複を解消し、一体的かつ効率的な運営体制を構築する。



5つの地域・ソリューションを軸に統合・再編

図2 グループガバナンスの強化に向けた取組み

“One NTT DATA” に向け、グローバルガバナンスを強化

—現在、どのような取組みに最も注力されていますか。

西畑 今年の1月頃から、海外のグループ会社のメンバーと一緒に、グローバルなお客様の満足を勝ち得るために、NTTデータグループのグローバル事業を一枚岩となって展開する取組みに力を入れてきました。そのためにはお客様にバリューを提供することはもちろんのこと、NTTデータグループの現場の業務プロセスを含めて1つになることです。グループが1つになって、グローバルIT企業との競争に打ち勝てるチームにするために、“One NTT DATA”として一体化することが重要です。そのためには、ブランドも変えないとまずいよねという話も出てきて、ワットと一気に一体化へ動きました。

「One NTT DATAを実現させる」をテーマに、2011年の7月（大津）

と10月（ボストン）の2回のCEOサミットでの議論を踏まえ、大枠をすべて固めました。図2に示すように、日本のNTTデータをグローバルヘッドクォーターとして、米州・EMEA（Europe：欧州、Middle East：中東、Africa：アフリカ）、APAC（アジアパシフィック）・中国の4つの地域を軸とした地域統括体制の整備と、1つのソリューション（SAP）を軸にした再編を含めた拠点やソリューションなどの機能配置の最適化の促進に注力しています。営業、開発、ソリューション、テクノロジーについてカンパニーと海外グループ会社との連携を促進し、“One NTT DATA”実現に向けたグループ全体でのシナジーを創出することが狙いです。

—ソリューション軸は、SAPだけですか。

西畑 まずは、SAPを軸にグループ横断的な連携を進めていきますが、当然、ソリューションの幅を拡大していくことを考えています。

—統合・再編で、5人のトップが誕生するという事ですか。

西畑 タイミングは別にして、5人のトップ体制になります。事業の執行は5人のトップに任せ、日本のヘッドクォーターが監督するとともに、5人のトップとヘッドクォーターが一体となって“One NTT DATA”になるというガバナンススタイルになります。

“One NTT DATA”として、グローバルで高水準のサービスを提供

—最後に、今後の抱負をお聞かせください。

西畑 “One NTT DATA”になるということでロゴも変わりますが、ロゴの中身に魂を入れるのは各現場だと思っています。Oneになることだけが目的ではありません。Oneになることによって高水準かつ共通のサービスをグローバルで展開し、お客様に満足していただき、かつ我々も利益を出せるようになることが重要です。ケーキに例えると、基盤となるスポンジケーキが出来たので、上に乗せるトッピング（強み）をいかに増やしていくかが重要だと考えています。当然、トッピングの材料として、NTTグループとのシナジーを広げていきたいと思っています。また、次代を担うグローバル人材の育成に向け、日本を含めた世界5極によるグローバルな研修・人材交流にも注力していきたいと考えています。

—本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）